第４回　船井電機跡地施設整備基本計画策定検討委員会
委員会からの意見等と市の考え方

１．開催日時：令和７年１月２８日（火）１０時から１２時１５分まで

２．委員会からの意見等と市の考え方

（１）図書館に関する意見

意見の主な内容	市の考え方
これまでの議論では、「図書館の基本理念や位置づけ」といった部分がなく、いきなり施設の規模の話になっているように感じている。新しい図書館については、市民にとってどのような施設になるのか、どのような方針のもとで運営し、どのような事業を展開していくのかといった理念や方針については、基本計画の中に必ず盛り込むべきだと考えている。委員会において、理念や方針について議論する機会を設けていただきたい。	新図書館の位置づけや基本理念については、「船井電機跡地施設整備基本構想」において、施設全体のコンセプトとして示しています。図書館単体でのサービスや基本方針等については、基本計画の策定段階で検討し、明確にしていく必要があると考えています。 また、個々のサービスや導入機器の詳細については、その次の段階での検討事項と考えております。
近隣自治体の図書館（土佐市：延床面積 1,641 ㎡・蔵書数 92,000 冊、美馬市：延床面積 2,365 ㎡・蔵書数 119,000 冊）と比較すると、現在検討されている三好市の図書館（延床面積 1,070 ㎡・蔵書数 90,000 冊）は、やや見劣りするのではないかと感じる。	三好市内には現在、図書館・図書室が 2 館 4 室あり、船井電機跡地には中央図書館として 90,000 冊をベースに検討しているところですが、それ以外の館・室も引き続き維持する方向としております。市全体としての蔵書数は約 133,000 冊となるため、中央図書館としての 90,000 冊はあくまでその一部であり、これをもって市全体の蔵書数とするものではございません。さらに、移動図書館や電子図書館なども活用し、全市的にサービスの充実を図っていきたいと考えております。

意見の主な内容	市の考え方
新しい図書館は、多目的ホールと併設されるが、ホールはイベント時以外は開館しておらず、賑わいづくりの観点から図書館が中心的な役割を果たすべきと考える。したがって、図書館では主催事業に力点を置く必要があり、その実施場所についても体育館の会議室などではなく、新施設内にふさわしい形で整備していただきたい。また、基本計画の取りまとめにあたっては、現場の声を反映する機会を設けてほしい。	図書館は新施設内において、賑わいの創出を担う重要な機能と捉えており、どのような方針や内容で展開していくかは今後検討を進める必要があると考えています。個々のサービスや導入機器の詳細については、その次の段階での検討事項と考えております。 あわせて、現場の意見を聴く機会についても検討していきたいと考えています。

（２）多目的ホールに関する意見

意見の主な内容	市の考え方
第 3 回で「300～500 席（資料 3 の 17 頁）」という話があり、今回（第 4 回）でも資料に「300 席以上、500 席以下が妥当」とあるため、すでに決定したかのように感じるが、そうではない認識だった。同様に第 3 回で「文化振興を軸に地方創生の起爆剤（資料 3 の 22 頁）」とされていた項目が、第 4 回では削除されているようで、その点を確認したい。	「300～500 席」はあくまでたたき台で、確定事項ではございません。想定される使われ方や使用頻度に即したホールの計画が必要と考えており、実際の使われ方の想定により費用対効果を踏まえながら規模を検討してまいります。 また、「文化振興を軸に地方創生の起爆剤（資料 3 の 22 頁）」とされていた項目が、第 4 回では削除されているとのご指摘については、修正箇所（資料 3 の 17 頁）を新たな提供資料として掲載していることから「文化振興を軸に地方創生の部分の活性化も目指す」というところは第 3 回からそのまま引き続き継続しており、その考え方は変わっておりません。
市の興行の想定（資料 3 の 7 頁）は年数回となっているが、もっとあるのではないかと感じる。民間興行をする前提なら 10 回以上はありうるし、市民イベントや学校行	資料 3（7 頁）市の興行の想定は「市が経費を負担して興行を依頼する」前提としており、回数を増やしすぎると財政的に厳しいと考えます。ただし、自主興行（民間

事、四国全域を巻き込むイベントを考えれば、年数十回になる可能性もあるのでは。	がリスクを負う形)の可能性があるなら状況が異なるため、今後ヒアリング等で確認していきたいと考えております。
当初我々は 800 席程度がいいのではないかと考えていましたが、第 3 回の事務局からの説明では、1000 席未満では民間興行の誘致は難しいということでしたので、民間興行で活性化するためには施設の規模としては 1000 席を希望します。1 階 700 席・2 階 300 席に分割し、小規模利用にも対応できるようにしてはと思います。	1,000 席規模のご提案については、民間興行の誘致や収益性の観点から一定の規模が必要であるという点で、重要な視点と捉えています。一方で、施設規模の拡大に伴い、建設費や維持管理費が増加するため、費用対効果も含めて慎重に検討する必要があります。多目的ホールについては、身近に気軽に文化に触れられる「文化振興」を軸としつつ、地域活性化にも資する施設となるよう議論を進めています。その実現のためには、施設の「量的な大きさ」だけでなく、「どのように使われるか」といった質的な観点も重要と考えています。今後は、民間興行が実際に成り立つかどうか、民間事業者の意向や採算性についてヒアリングを行いながら、施設規模や運営のあり方について引き続き検討を進めてまいります。
沖縄の事例で維持管理費ゼロの例があるなど、民間活用次第でコスト削減も可能と考える。コンセッション方式や PFI、指定管理方式など多様な運営形態があり、実際に事業者を呼んで話を聞くのがよい。希望する事業者さんに来てもらって説明してもらったらいいのではないかなと思います。	ご指摘の沖縄の事例を含め、民間活用によるコスト縮減の可能性については、今後の検討において参考にしてまいります。 委員会でのご意見も踏まえ、今後、必要に応じて事業者からのヒアリングの機会を設け、整備・運営の検討に活かしていく予定です。
当団体はサンライズビル跡地利用の段階から、本施設の整備計画について議論を重ねてきた。経済団体として、過剰な投資は慎むべきと認識する一方、地方創生の視点から本施設を地域活性化の起爆剤と捉え、	本施設については、身近に文化に触れられる機会を提供する「文化振興」を軸としつつ、地域活性化にも資する施設となるよう検討を進めています。あわせて、過剰な投資を避けながらも、地方創生の観点から

若い人や女性、将来を担う子どもたちに夢と希望を与えられるような取り組みを望んでいる。 当然ながら、当団体内にも多様な意見があるが、次世代への負担を最小限にしながら、新たな投資や集客を生み出す呼び水となり、今回の議論が高校生やＵターンを検討している方々にも熱く語れるような議論を積み重ね、そうした魅力あふれる施設を目指したいと考えている。	地域の魅力や人の流れを生み出す「起爆剤」としての可能性についても重要な視点として考えています。また、施設の「規模」だけでなく、「どのように使われるか」という質的な観点が重要であると認識しており、若い世代やＵターンを検討されている方々にとっても魅力ある施設となるよう、引き続き委員会で議論を重ねてまいります。
ホールの舞台前の空間における座席数（資料 10 頁では最大 620 席）について、その算出根拠を確認したい。舞台前の空間を 20m×20m＝400 ㎡と仮定すると、類似する面積のサブアリーナにこれほどの席数が入るのか疑問である。座席配置の考え方を具体的に説明してほしい。	座席数の検証は、1 席あたり幅 0.5m×奥行 1.0m の空間を基準に、座席の配置可能範囲に四角形で表して算出しています。15m 以内を視認性の生理的限界とし、座席が舞台に近い順から（濃青：240 席、青：320 席、緑：620 席）色分けしています。図内の 2 本のグレー線は通路であり、実際の座席数は若干減少する可能性があります。 子どもの発表会などイベントの内容によっては、適切な距離で鑑賞できる座席配置やホール規模が重要であり、空間の広さだけでなく使い方の検討が必要であるとの考え方から、試算・図示したものです。
資料 13 頁の右側に「多目的ホールは 300 席以上、500 席以下が妥当」とあるが、その根拠が左側に記載された「三好市教育振興計画後期計画」から来ているのかどうか。また、もしそうであれば、教育振興計画からどのようにしてこの座席数の妥当性が導かれているのか、その解釈を説明してほしい。	記載の根拠は教育振興計画の中にある「市民の参画機会の提供」や「文化意識の向上」の方針を踏まえたものであり、社会教育課がこれまで市民大学講座等で実施してきた事業実績に基づいています。実際の利用実績では、300 人以上、多くても 500 人以下の規模であることが多く、過度に大きなホールとなると運営面での課題が生じます。また、隣接する総合体育館との機

	能の重複を避ける観点からも、300～500席規模が文化振興の観点で妥当と考え、教育委員会としてこのような記載をしています。また、文化・芸術の質向上に寄与するグレードや規模に見合ったホールが望ましいと考えております。
10頁の資料で、座席数が青や緑などで色分けされているが、周囲の白い部分も含めて見ると、全体で1000席規模にも見える。そのため「350～500席」といった制限は不要ではないかと感じる。 また、野外イベントを想定した場合、通常の座り心地のよい椅子を用い、舞台を屋外に向けて開放的に設ければ、2000席程度も可能ではないかと考える。その方がコストも抑えられ、より柔軟な運営ができるのではないかと思っている。	資料に示した座席の色分け（青・緑など）は、視認性や快適な鑑賞距離を基に、段階的に着席エリアを想定したものであり、白い部分まで含めて1000席規模と見なすものではありません。視界の確保や通路等の制約もあり、現実的な着席可能数は色分けされた範囲を上限と考えています。また、屋外イベントとしての利用を前提にすれば、より多くの観客席の設置も理論的には可能ですが、交通・駐車場・騒音・視認性などの課題への対応が必要となることから、新施設の整備については、屋内の多目的ホールを中心とした整備を基本として検討しています。
三豊市の文化会館マリンウェーブを視察した際、ホール（マーガレットホール）は改修中で見学できなかったが、会議室などの多目的スペースは市民に頻繁に使われている印象を受けた。施設内には詫間支所や社会教育・まちづくり関連機関が併設されており、市民が自然と訪れる構造になっていた。管理会社からは、コロナ禍以降、ホールの興行的な利用は減少した一方、小会議室やイベントホールは市民の相談や説明会などに多く活用されているとの話を聞いた。このような状況を踏まえ、船井電機跡地の新施設においても、利用の促進を図るためには、多様な活用を想定した整備が必要で	施設の整備にあたっては、市民が日常的に訪れやすく利用しやすい構造とすることが重要であると認識しています。マリンウェーブのように日常的な人の流れが生まれる構造は、参考になると考えています。イベント時以外にも活用される会議室や多目的スペースの需要は、船井電機跡地の新施設においても十分に検討すべき要素と考えています。今後の基本計画の検討にあたっては、「使う側」の視点を重視し、市民の日常的な利用や交流を促すような空間構成や機能配置を目指していきたいと考えています。

あり、「使う側」の視点から必要な機能を検討することが重要であると考える。	
船井電機跡地の敷地面積は 16,000 ㎡であり、そこに図書館といわゆる文化ホールを配置することを想定した場合、駐車場や防災拠点としての平場スペースも必要であると考える。特にイベント時には、船井電機跡地が駐車場として活用されていることから、現地での駐車スペース確保が困難になれば、いけだ阿波おどりなど地域イベントの運営にも支障が出る可能性があると考える。こうした点を踏まえた上で、物理的な制約を考慮すると、1,000 席規模のホールの整備は難しく、600～800 席程度が妥当な規模ではないかと個人的には考える。	敷地面積や周辺の利活用状況、防災機能や駐車機能などの条件を踏まえ、ホールの規模や配置のバランスを考慮することは必要であると考えています。特にイベント時の交通や駐車場の課題、地域行事への影響などにも十分配慮しながら、基本計画の中で実現可能な施設規模と機能構成を検討してまいります。
ステージはプロセニアム形式のホールで、固定席 650 席程度が望ましいと考える。立地条件などにより集客が見込めないという意見もあるが、そもそもそのような施設が存在しないことが利用の妨げになっているのではないか。施設整備によって多くの活用が期待でき、地域団体や県内外の大会・イベントにも活用できる施設とすべきである。 また、可動席より固定席が望ましい。固定席の下部空間を備蓄などに活用でき、可動席よりも建設・運営コストの面で有利である。	利用目的を踏まえた上で、適切なステージ形式について検討を進めてまいります。ホール規模についても、想定される利用頻度や事業内容、周辺施設との役割分担を踏まえて検討を進めてまいります。 固定席・可動席のいずれが適しているかは、利用形態やコスト、災害時での備蓄スペースとの両立などそれぞれの利点を踏まえ、多角的に検討してまいります。
近年の音響機器は性能が高いため、音響設備面に重点を置いた設計を求めたい。反射音による音質劣化の防止や、適切な音響	施設整備にあたっては、使用目的に応じて適切な音響環境を確保することが重要であると考えています。

効果が得られるような施設にしてもらいたい。	今後、音響に特化した利用が見込まれる場合には、必要に応じて相応の整備を行うことも視野に入れ検討してまいります。
高さ 2.4m程度の大型作品が展示できる展示室や、作品展示が可能なフックやレールを備えたオープンスペースの設置が必要である。鏡付きで、間仕切りの開閉によりリハーサルや会議にも使える会議室が望まれる。	施設整備にあたっては、使用目的に応じて必要な機能を適切に検討し、利用しやすい空間づくりを進めることが重要であると考えています。今後の基本計画の検討においては、展示やリハーサルなど多様な活用ニーズを踏まえ、必要に応じて展示設備や可変的な会議室等の整備も含めて検討してまいります。
規模に関わらず「文化ホール」として整備することが望ましいと考える。市外からの利用も視野に入れ、文化振興や地域活性化につながる施設にしてほしい。	施設整備にあたっては、文化振興や地域のにぎわい創出といった観点も踏まえ、より多くの方に利用される施設を目指して検討を進めています。 名称については多くの方に利用いただける「多目的ホール」としていますが、実際の活用内容に応じて、ふさわしい性格づけや方向性を今後の計画の中で検討してまいります。
施設整備にあたっては、「何を目的とするホールか」を明確にする必要があると考える。例えば、市民の発表会や公民館事業を充実させるのであれば、それに沿った施設整備と運営体制が必要である。 一方、民間興行を重視するのであれば、他地域のホールとの競合を踏まえ、興行主に選ばれる施設であるかどうかの検証が求められる。	ホールの整備にあたっては、目的や役割を明確にし、想定される利用実態に基づいて必要な性能や機能を整理することが重要であると認識しています。市民の発表や地域行事、民間興行など、想定される用途に応じて、施設機能の方向性を今後の基本計画の中で整理してまいります。 民間興行を見据える場合には、周辺自治体の施設状況などを踏まえつつ、実際の事業者の意向や採算性等も踏まえ、客観的な情報に基づいて規模や性能の検討を行っ

また、地方創生の観点からも、どのような活動・事業を充実させていくのかを踏まえた上で、ホールの機能や役割を検討すべきであると考える。	ていきます。興行主からの意見も参考にし、本市の施設の強みや差別化の可能性についても検討してまいります。 また、施設の規模や機能のあり方については、地域の特性や既存施設との連携、費用対効果などを踏まえながら検討を重ねてまいります。

（３）施設全般に関する意見

意見の主な内容	市の考え方
船井電機跡地に整備されるホールの規模も重要だが、それ以上に、施設が整備された後、日常的に人が集う場所になるかを想像しながら検討すべきである。 他市の類似施設でも、イベント開催時には賑わうが、日常的に訪れるのは図書館利用者が多い傾向にある。したがって、図書館機能の充実や、日常的に人が出入りする団体の事務所などの併設など、人口減少・少子化が進む中で、「日常の賑わいをどう創出するか」を施設計画の主眼に据える必要がある。	新施設においては、日常的な賑わいを生み出すために図書館が果たす役割は大きいと認識しています。 そのため、図書館のあり方や、施設全体の機能連携を整理する中で、日常的な利用を促す機能の構成について検討を進めてまいります。
施設整備にあたっては、「誰が」「何のために」使うのかという目的を明確にすることが必要である。市内外の利用を見据えた上で、周辺地域との関係性や三好市の役割を考慮し、他地域を巻き込んだリードの仕方を検討すべきである。また、今後の人口減少や建設・運営コストの高騰なども見据え、将来にわたって三好市としてどのような判断をしていくのかを整理していく必要がある。多くの熱意ある意見がある中で、それぞれの思いを尊重しつつ、今後の議論	施設整備にあたっては、「誰が、何のために」利用するのかという目的や対象を明確にし、必要な機能・性能を整理することが重要であると考えております。 また、周辺地域の施設との役割分担や、三好市らしい特性を活かした整備により、地域全体における位置づけやリードのあり方も考えていく必要があり、今後の人口動向や財政的な持続可能性も踏まえながら、優先順位や方向性について検討してまいります。

の中で優先順位や方向性を整理し、選択していくことが重要であると考える。	
多様な意見がある中で、最終的な方向性や落としどころが見えてこない。計画された施設がどのように運用されるのか、具体的なイメージを持つ必要がある。施設の年間行事回数や利用者数などの数値化が必要である。施設の利用イメージを具体化し、議論の深まりや方向性の明確化につなげる。民間業者が自主的に借りてくれるのか、行政が営業して誘致する必要があるのか不明瞭である。次回以降、より具体的な内容や運用面の掘り下げを行ってほしい。	本施設の検討においては、最終的な方向性を見定めるためにも、運用面を具体的に想定しながら議論を進めていくことが重要であると認識しています。今後は、既存施設の利用実績に関する数値データを整理・共有し、利用イメージの具体化につなげてまいります。また、民間興行についても、事業者が自主的に活用する可能性と、行政が誘致的に働きかける必要性の双方を想定し、今後のヒアリング等を通じて現実的な運用像を把握していきたいと考えています。これらを踏まえ、次回以降の委員会では、より具体的な内容や運用方法についての議論が深まるよう調整を進めてまいります。

（４）その他の意見

意見の主な内容	市の考え方